

目標達成計画

作成日: 平成30年9月28日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	個別的な対応を目指してはいるが、実際には画一的になりやすく、“遊び心”や“面白味”が不足している。もっと利用者の思いや個性を生かした個別対応を実践していく必要がある。	“遊び心”や“面白味”のある個別対応を行うことができるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ●各利用者に接する際には、個別的な情報(プラス面・マイナス面とも)や思いについて探る習慣をつける。 ●利用者同士の関係(気が合う・ライバル視している・関心がない・力関係等)について観察する習慣をつける。 ●利用者の言動を理解しようとする際には、多角的に考える習慣をつける。 ●各担当職員は担当利用者の『気づきシート』記入時には収集した情報と他の利用者との関係性を生かした面白味のある内容を記入し、介護サービス計画書作成時に組み込むようにする。 ●介護サービス計画書作成時には、家族の意向を踏まえた上で各担当職員と内容の検討を行う。 ●内容については、より本人の個性を重視したものになるように心がけ、遊び心・面白味・ユーモア等を含むものにする。 ●実施時には“楽しみ”や“はりあい”を感じられる瞬間になるようにすすめる。 	12ヶ月
2	33	利用者の身体状況の変化(重度化・終末期)に対し、“重度化している”という認識が甘い為、対応方法についての切り替えが難しく一般的な対応しかできていない。より個性を重視した看取り介護の実践が望まれる。	利用者の重度化についての認識を深め、安心して安楽に過ごすことができるような個性のある対応ができるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ●各利用者の既往歴・現病歴について学習し、今後起こり得る状態(病状が悪化した場合の症状や注意点等)についての知識を深める。その際には状態(脳卒中発作時等)の対応についても実践的に学べるように実習も組み込む。 ●各利用者に接する際には、プラス面での個別的な情報(好きな食べ物・好きな飲み物・好きな歌や音楽・快い刺激等)について探る習慣をつける。 ●看取り介護実施時には少しでも気づきがあればカンファレンスを行い、本人の要望に沿ったより個性のある温かい対応につなげる。 	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。